

3. 職場体験学習授業

職場体験学習授業は、越路中学校の2年生男子3名を8月10・11日の2日間（各半日）受け入れることになりました。

受け入れ前に貰った、彼らからの自己PRカードには次のように書いてあり、彼らにとって建設業のイメージは共通して『ビルや住宅の建築』『力仕事』なのかと改めて感じました。

自己PRカードより抜粋

【興味関心がある事・得意なこと】

「建物を造ることに興味がある」「力仕事に興味がある」「物を作るのが好き」

【訪問先を希望した理由】

「建設会社が何をしているか知りたい」「どのような建物を造るのか知りたい」「細かい作業が好き」

【体験活動を通して学びたい事・身につけたいこと】

「社会のルールや仕事・会社の厳しさを知りたい」「働くと言うことがどのような事なのか知りたい」

「会社での礼儀を身につけたい」「仕事でのマナーは、どういう事なのか知りたい」

実際の建設業は、どのような物なのかを職場体験授業を通して《彼らの周りにどのような建設があるのか？そこでどのような人が、どのような仕事をしているのか？》など少しでも理解して貰い、実は身近で生活を支えていることを知って貰いたいと思いました。

また、せっかく興味を持って希望してくれたのですから、おもしろと思える体験と同時に何をしているのか目的や意味を解って貰えるような体験授業に行きたいと思い、出来るだけ現場での作業や体験を多く取り入れたいと思いましたが、今年は、特に異常な猛暑が続き熱中症が心配され屋外の作業体験をどのようにしたら良いか悩みました。

そこで、まず安全に彼らに出来る事を考え下記のとおり実施しました。

職場体験学習1日目 8:30~12:00

- 1) 現場管理とパソコン
工事写真や出来形・品質などの施工管理について
- 2) 測量学習
測量器について（光波トランシット・レベル）
レベルの考え方から実測まで
- 3) 横断測量
実際の現場横断測量を体験
- 4) 現場説明と建設機械
工場の必要性と目的・概要
建設機械の用途など

1) パソコンにより現場管理が行われていることを説明しました。



測量学習の資料もオリジナルで作りました。出来るだけ図を取り入れて解りやすく簡単に成るように注意しました。

2) 測量学習

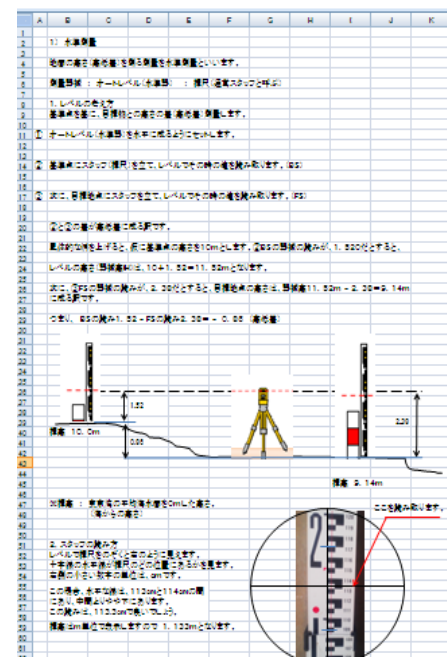
レベルの据え付け標尺の読み方を教え、現場で実際に横断測量を行って貰いました。



3) 横断測量状況



猛暑のなかで、据え付けにも苦戦しましたが、しっかりやりきりました。



4) 現場説明と建設機械

現場見学をしながら工事概要や工事の目的・現在どのような作業をしているのかを説明しました。
また、そこで使用されている建設機械（バックホウ・クレーン・ローラー）の機能や用途について説明しました。



工事区間が、広いので現場移動は車です。移動中は、車窓から見える道路や橋・水路・水道・ガス等のライフラインなど生活の上で身近なものも建設工事である事を説明しました。



スーパーロングバックホウに乗って、重機から見た視界を体験して貰いました。口元が笑っています。やっぱり子供は、重機が好きなのでしょう。

職場体験学習 2日目 8:30~12:20

- 1) 安全作業のための注意
作業時の注意と熱中症対策などについて
- 2) 安全施設の設置撤去
交通規制時の不要看板撤去
バリケード・仮歩道の設置
- 3) CADによる作図体験
測量データを基に作図
- 4) 質疑応答

1) 安全作業のための注意

現場作業の前に熱中症など安全について注意して作業開始です。



不要看板の撤去を行いました。掛け矢を見てその大きさに驚いていました。彼らには、見るもの全てが珍しいようです。軽作業だと思って実施しましたが、彼らには、結構大変だったようです。

2) 安全施設の設置撤去



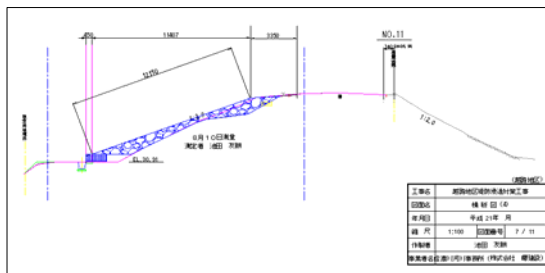
バリケードの設置をしました。この日も、暑い日でした。熱中症には、注意して作業を体験して貰いました。



現場の人たちと一緒に休憩です。現場の人達も子供達が大好きです。「後で、写真くれ」って言われました。

3) CADによる作図体験

昨日の現場測量データを基に、CADを使って作図を行って貰いました。



現況横断面図に測ってきた横断面測量結果を重ね、出来形を計りハッチングを掛け図面を作りました。

4) 質疑応答

Q1 一番大変な仕事は何ですか？

A 工事は、外で行う仕事なので雨や雪など天候により予定していた作業が出来ないことがあります。その都度調整や変更作業が発生しますし、工事を遅らせないようにするのが大変です。

Q2 仕事をしている中で気をつけていることはありますか？

A 安全に工事が行えるように注意しています。また、近隣地域の人に迷惑にならないように気をつけています。

Q3 主な仕事内容は何ですか？

A 私達は、地域や関係機関と調整しながら、機械や資材などの手配を行い工事を運営しています。また、工事が規格通りの形や品質に保たれるように管理を行っています。なお、この工事には建設機械を操縦したり、その補助作業や側溝類の据え付けなど、いろいろな役割の人が仕事をしています。

Q4 この仕事にあたり必要な資格はありますか？

A 建設業には、いろいろな分野やさまざまな仕事の役割があり、その職種によって必要な資格が違います。土木工事を監督管理する場合は、土木工事や管工事・造園工事などの施工管理技術者の資格が必要です。建築工事であれば、建築士や建築施工管理技士そのほか、測量業務は、測量士・建設機械のオペレーターは、車両系建設機械免許・建設機械施工管理技士などその他にも職種によっていろいろな資格や免許が必要です。

Q5 この仕事にどのくらいの人が関わっていますか？

A 建設業（建築・土木他を含め）は、全産業の10パーセント程度の人が、携わっていると言われて主要産業の1つと言えます。ちなみに、この工事では、1日15人程度の人が工事の規模や作業によっては、ずいぶん異なります。

4, おわりに

彼ら以外でも私達の職場体験を希望する生徒さんが多かったようでくじ引きでメンバーが決まったと聞き、建設業に興味を持ってくれた生徒さんがいることを嬉しく思いました。

職場体験学習の進め方については、自己満足に成っていなかったか？もっと他のことを体験させた方が良かったか？ 本当は、もう少し現場で作業する人達とのふれあう機会を多くした内容の方が良かったのではないかと反省は多くありますが、彼らからお礼の手紙を頂き彼らの考えの変化が嬉しく思いましたので少し紹介します。

「建物を造ることが建設の仕事だと思っていた。いろいろな建設の仕事が有ることが解って良かった。」

「現場に行ってどんな仕事をしているか実感できて良かった。」

「実際に計測したデータをパソコンでまとめたのも大変だったけど楽しかった。」

これらの手紙から職場体験授業を通じて、少し建設業について解って貰えたのではないかと思いますし、若い人達が建設と言う仕事を身近に感じて貰えたり、興味持って貰えれば嬉しく思います。

また、次世代の若い人との交流は私達もワクワクする良い経験が出来ました。

それは、私だけではなく作業員の人達も同様だと思います。

今建設業は、厳しい時代ではありますが、多く若い人が入ってくことで、活気あふれ魅力的な業界が築かれると思います。

とにかく建設業は、偏見の目で見られがちありますが、こうした活動をとおして少しでも多くの人から身近なものに感じて貰えるように今後も実施していきたいと思えます。

最後に、発注関係者の皆様にご指導頂き工事が、トラブルや苦情無く無事故で完工することが出来ました。工事に協力して頂いた皆様に感謝申し上げ報告を終わります。